



KANGO



P.12

いいお産の日
2024 in はちのへ



P.11

令和6年度
青森県総合防災訓練

青 い 森



contents

- 教育研修課 実践レポート p.04
- 教育研修課 オンライン研修・図書のご案内 p.05
- 認定看護管理者教育課程の募集について p.05
- 研修報告 p.06-07
- ナースセンターだより p.08-09
- 訪問看護総合支援センターを立ち上げて p.10



P.14

健康まつり

- 広報出版委員会 p.11
- 職能委員会 p.12-13
- 支部だより p.14-15
- 准看護師理事より p.16
- 県民福祉プラザ全館工事のお知らせ p.16
- 編集後記 p.16



会長 新年ごあいさつ

公益社団法人青森県看護協会 会長 川野 恵智子



年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
会員の皆様、そして青森県の地域医療を支えてくださるすべての方々の希望と飛躍の一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、本会として初めての試みであった「県民フォーラム」の開催は、県民に「看護」について触れていただくとともに、「看護」について自ら発信することの意義を強く認識する機会となりました。また11月の青森県看護学会は、看護の質向上に資する現場の貴重な実践が共有される場として、例年を上回る参加数で開催されました。看護学生と60歳以上の看護職の参加費を無料としたこともあり、特に看護学生の参加が大幅に増えたことは大きな意味があるととらえております。これらをはじめとしたすべての事業は、委員会活動はじめ事業に関わった皆さま方のご尽力の賜と心より感謝申し上げます。

さて、今年の干支である「巳」には、脱皮をする蛇のイメージから「復活と再生」という象徴的な意味あり、新しい事が始まる年になるといわれているようです。

2025年問題とされたまさにその年に突入し、これまで

の10年間の取組みを基盤として2040年を見据えた新たな挑戦はすでに始まっています。85歳以上の人口の増加に伴い、医療と介護の複合ニーズがより一層高くなることを見込まれ、高齢者の緊急搬送の増加の一方で、入院加療を必要としない軽傷や中等症の患者が増加している状況等から、新たな地域医療構想は、「入院医療だけではなく、外来・在宅医療・介護との連携等を含む、医療提供体制全体の課題解決を図る」を基本的な方向性としています。日本看護協会においても、2026年からの「新たな看護の将来ビジョン」について鋭意検討しているところです。このように、本年は私たちにとって新たなフェーズへ移行するための節目の年になります。会員の皆さまの声を大切に、看護の本質を見失うことなく柔軟な姿勢で、看護の質と量の確保に向け共に進んでまいりましょう。

結びに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、本協会への変わらぬご支援をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

今年もどうぞよろしく願いいたします。

県学会

第53回青森県看護学会開催!

／メインテーマ／ 多様性を認め合う 看護の力



令和6年11月9日(土)、リンクモア平安閣市民ホールにて第53回青森県看護学会が開催されました。

初めに青森県看護協会川野会長より「今回の学会が看護の創造と交流の場となり、次世代に向けて希望あふれる看護のバトンをつなぐための一助となれば」とお話しがありました。

特別講演

特別講演は順天堂大学保健看護学部精神看護学教授北川明氏より「大人の発達障害～理解と支援～」をテーマにご講演いただきました。「大人の発達障害に厳密な定義はなく、社会人になり判明する場合が多いこと、また、うつ病や適応障害など二次障害が発現することが報告されています。そのため発達障害のある医療従事者の支援にあたっては、単に障害特性への対応だけを考えるのではなく、心理面にも気を配っていかなければならない」と話され、発達障害のあるスタッフとの関わり方について多くのヒントを得ることができました。



北川明氏

演題の発表



一般演題

一般演題は18題で、次の看護研究や看護実践につながる質問や意見交換が活発に行われました。

また、演題数や参加者増の拡大への新たな試みとして、『優秀演題賞』の表彰を設け、つがる総合病院の三浦玲奈さんが発表された「慢性心不全患者の自己管理の確立に向けた退院支援～パンフレットを活用して～」が受賞されました。

今年度の学会参加者は看護学生を含め、417名と昨年度を上回り、参加者からは「発表演題が多く、優秀演題賞は看護研究のやりがいにつながると思った」「県内の看護スタッフの研究に興味があり、参加すると元気が出る」との声も聞かれ、実り多い学会となりました。

記：広報出版委員会 大坂 祐貴美・下山 江梨花

発表された方へ研究の感想をインタビューしました!

優秀演題賞 受賞
おめでとうございます



つがる総合病院
三浦玲奈さん

入院患者には心不全患者が多く、退院後の生活指導も大切だと思っていた。しかし、生活習慣を変えることはとても大変だった。また、多職種と連携し、退院後の生活を見据えて看護をしていくことの大切さがわかった。

公立野辺地病院
竹高章仁さん



「A病院の2交代・3交代制夜勤を担う看護師のストレスに関する実態調査」チームとしての研究は初めてで大変だった。今後、夜勤体制を変えていくことが課題だと感じた。

県学会を終えて...

第53回青森県看護学会が大盛況のうちに終了しました。皆様のご協力とご支援に心から感謝申し上げます。

特別講演「大人の発達障害～理解と支援～」順天堂大学保健看護学部：北川明先生のご講演の内容は、実際に現場で悩んでいる方々も多く、会場の皆さん一体となり目を輝かせて拝聴している姿が印象的でした。その後、18演題の研究発表がありましたが、日頃の小さな気づきや疑問から、どの演題も看護の質をより高めるために献身的に努力している様子がかがえると共に、看護の発展に寄与する素晴らしい内容でした。

今年度から設けました優秀演題賞ですが、現場で日々奮闘されている看護職の皆様の励みやモチベーションアップに繋がたいという学会委員会の熱い思いから、生まれました。「栄えある第一回目の受賞者は『つがる総合病院三浦玲奈さん』です」と発表した直後には、会場から『キャー』という歓喜の声も上がり、主催

者側としては大変嬉しい限りでした。受賞されました三浦さんには心からお祝い申し上げます。

看護は、健康と幸福を支える重要な職業です。私たち看護職一人ひとりの専門知識・技術・共感性があってこそ成り立ちます。日々積み重ねた努力が、多くの人々の生活を豊かにし、社会全体に貢献していることを誇りに思います。

次年度も、青森県の看護職のじよっぱり魂を集結し、看護の質向上と発展に努め、皆様と共に看護の力で活気あふれる生き活きた看護学会を開催できたらと願っています。沢山のご応募をお待ちしております。引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記：学会委員長 工藤 みや子(弘前総合医療センター)



教育 研修課



看護職の生涯学習 実践レポート

生涯学習のガイドラインがスタートし、個々が主体的に学習に取り組みキャリア形成できるよう、教育委員と共に多くの研修を開催しています。

今回ご紹介したい青い森病院に勤務されている小田桐祐子さんは『学びのプロセス』を早速実践し、学習に取り組んでいるお一人です。小田桐さんが描く将来ビジョンとは？

学習の計画をどのように立てていますか

年度初めに研修一覧表をスケジュール帳に仮押さえとして、全て記入しています。毎月の勤務状況に応じて、参加可能な日をピックアップして申し込みます。マナブルを最低週に1回はチェックし、最新の研修情報を得るようにしています。

研修に参加して、看護をするうえで変化したと思うことはありますか

精神科医療以外の分野にも幅広く目を向けることができている。他施設の取り組みで、自施設でも真似できることは取り入れてみたいと考えるようになりました。研修で得た学びもかまわずに、普段から「この前、研修でこんなこと聞いてきたのさ〜」というように説明し現場に広げるようにしています（もちろん報告書は書きますが）。

小田桐さんにとって「学び」とは

看護師は人の命・人の人生に関わる尊い仕事です。環境や人のせいにせず、自分を律して自分を信じて、看護の可能性を広めていくために「学ぶ」ことは、必要不可欠だと考えています。そして、『学ぶこと』を諦めずに、やり続ける人がプロフェッショナルだと思います。

描いている目標はありますか？

精神科（精神疾患）に対する差別や偏見がなくなる世の中になるように、誰の事も見捨てない精神科医療・看護を確立していきたいです。精神科認定看護師として、できることから活動し、県内にはまだいない精神看護専門看護師の資格取得にチャレンジしてみたいと思っています。児童思春期から老年期まで、どの時期においても苦しんでいる人を支えることができる看護師が増えるように、まずは自分から人間力を磨いていきたいです。

最後に

精神科単科の当院は、ナースコールや電子カルテがありません。しかし、豊かな自然に囲まれて、優しく個性的なスタッフが多く在籍しています。当院は「やさしさと思いやりの気持ちを大切に、学び続けることによって、地域から信頼される精神科医療を提供していくこと」をミッションに掲げています。

私自身、精神科認定看護師として勤務し、精神科医療や認知症看護等を学んでいますが、コロナウイルス流行により院内では集合研修が再開されないまま現在に至っています。当院のミッションにある「学び続けること」を体現するためにも、看護協会主催の研修に参加させていただくようになりました。オンライン研修は自宅にいながら受講可能なため、子育て世代の私にはとても助かっています。集合研修では、特にグループワークでディスカッションを繰り返し、他施設の参加者と交流を深めることでさらに、学びに奥行きが生まれます。研修テーマも、現代社会における課題・明日から職場で実践できるもの・研修終了後も何度も心の中で反芻し、学びを深めて行くもの…とどれも患者さん・

ご家族のために重要なものばかりです。

青森県の委託事業「認知症対応力向上研修」は、超高齢社会における看護職のスキルアップに役立つ内容であり、「病院からつなぐ地域包括ケア看護実践者育成研修会」は、座学の他に実習もあり、自施設以外を見学・体験することができる非常に貴重な内容です。今後は、研修での学びを現場に還元していけるように活動していく予定です。

「患者さんのために・ご家族のために」と努力し続ける行動に年齢もキャリアも関係ないと私は考えています。

今後も【患者さんと家族が笑顔になることを諦めない】看護を提供できるよう努力していきます。



青い森病院 精神科認定看護師

小田桐 祐子 さん

オンライン 研修

を受講する際は

令和2年度から徐々に始まった zoom によるオンライン研修。一度は皆さんも参加したことがあるかもしれません。当協会が実施している研修も今では半分がオンラインです。そこで、受講の際は以下の項目を特にご確認ください。

01 manaableの登録はお済みですか

施設申込の方で、ご自身のmanaable登録をしていない方が一定数います。zoomのID/パスコードが送られてこない??という方。研修はmanaableから直接zoomに入室しますので必ず会員登録を済ませてください。

02 受講中、氏名・施設名の表示はされていますか

施設名だけだったり、ご本人ではない氏名が表示されていたり…。出席確認ができませんので、正しい表示をお願いします。

03 資料についてのお知らせを確認していますか

講義2日前(講師の都合にもよりますが)には資料を掲載します。その旨、皆様の登録アドレスにお知らせメールを送信しています。前日になっても届かないという方は、**manaableにログインし、お知らせを確認してみてください。**同じ内容が通知されています。☆資料は研修を「**受講する**」をクリックすると確認できます(資料はPDF)☆

教育研修課からのお願い

- ①皆様からお問合せのメールをいただきますが、施設名・氏名・研修名を記入されていないことがよくあります。すぐ回答するためにも、必要情報の記載をお願いします。
- ②研修の実施要領や、研修の備考欄に持ち物等の記載をしている研修もあります。参加される前は是非ご確認を。
- ③非会員の方で研修申し込みされるかたは、施設名・職種の記載をお忘れなく。

新着図書 入荷

しています!



看護協会図書室では会員向けに書籍の貸し出しを行っています。研修や看護研究等に必要な資料だけでなく日々の業務のちょっとしたヒント(!?)が見つかるかもしれません。そこで!今回は新着図書の一部をご紹介します!

「心理的安全性のつくりかた」

(著:石井 遼介)

不安や恐れもなく
安心して発言できる
環境づくりとは。

「まずはここから!多職種連携」

(著:駒澤 伸泰 監修:横平 政直)

「超人ナイチンゲール」(著:栗原 康)

ほんとに天使? あなたの知らない
ナイチンゲールがここに…。



医療・福祉全体の
連携の連続性を
イメージできる一冊。

など、あなたの読みたい本、ここにあるかも!? 看護協会へお越しの際はぜひ図書室へも足をお運びください。

ファーストレベル

【募集期間】 1月15日(水)~2月15日(土) ※最終日消印有効

【研修期間】 5月14日(水)~6月26日(木)の20日間の予定

サードレベル

【募集期間】 3月15日(土)~ 4月15日(火) ※最終日消印有効

【研修期間】 8月19日(火)~10月17日(金)の33日間の予定

☆研修期間は、講師の都合で多少変更することがあります。

研修申し込み

①manaable ②書類提出 の両方が必要です。manaableに掲載している募集要項を必ずご覧のうえ、お間違のないようお申し込みください。



令和7年度 認定看護 管理者教育 課程

の募集について

令和7年度のサードレベルは、公開講座も予定しています。管理者研修修了者の方・看護管理に興味のある方は、ぜひご参加ください。詳細は決まりしだい、LINE等でお知らせします。 **問合せ:教育研修課 ☎017-723-4579**

report 研修報告



★ 木村隆次会長

介護施設における 看護職・介護職との 医療安全交流会

10月18日(金) 県民福祉プラザにて実施

昨年度に続き、誤薬予防part2と題し、青森県介護支援専門員協会 木村隆次会長からご講義していただいたのち、グループワークを行いました。木村先生のお話のみ、ハイブリッド開催とし、16名が参加しました。誤薬予防、薬剤による認知機能低下、介護現場で働く方の問題意識を持ったモニタリングの重要性について、わかりやすくお話ししていただきました。学んだことを現場で活かしていただきたいと思います。

医療的ケア児

保育普及啓発フォーラム

10月28日(月) 県民福祉プラザにて、
ハイブリッド開催で実施

66名が参加し、医療的ケア児保育における現状、課題や、新規受け入れ事例を通しての行政・施設が取り組むべきことなどを参加者みんなで共有できたフォーラムでした。たくさんの課題がある中で、直接医療的ケア児に関わる方々の連携はこれからも必要不可欠であり、今後もネットワークづくり推進に向けた支援をしていきたいと思ひます。



網塚貴介氏

看護管理者のための 災害時受援体制研修

11月1日(金) リンクステーションホール青森にて実施

37名の看護管理者にご参加いただきました。災害看護活動委員会が作成した「災害支援ナース受け入れマニュアル(仮)」を、災害時の各施設の受援(外部からの応援を受ける)体制整備に活用していただくことを目的に開催しました。被災時に災害支援ナースの応援を受ける体制づくりの必要性について考えるきっかけになりましたが、自施設のマニュアルへの反映や、受援体制構築には至らず課題も残りました。災害時の受援体制構築への支援は、継続して取り組んでいきたいと思ひます。

災害時受援体制を考える
看護管理者にむ



保育所等における看護職員等の 資質向上推進事業

昨年度に引き続き、今年度も希望があった保育園等に、感染管理認定看護師を派遣しました。県内19施設に派遣し、自施設における感染対策の見直し、小児の感染症についての研修等それぞれが希望する内容で実施していただきました。「実際に園内を見てもらうことで、感染対策をわかりやすく具体的に指導してもらったことで、すぐに役立つ内容だった」「もっとたくさんのことを聞きたい」等の感想が多く聞かれました。また、青森・弘前・八戸を会場として、集合研修を行いました。嘔吐物の適切な処理の仕方についてグループでの演習のほか、感染症の蔓延を防止するための感染対策について学び、満足度の高い事業となりました。



感染管理認定看護師を派遣した園内での研修



嘔吐物の適切な処理の仕方を学ぶ

看護労働環境対策委員会が

青森県医療勤務環境改善支援センターと施設訪問

看護職が働き続けられる職場づくり体制の実態を把握するために、初めて青森県医療勤務環境改善支援センターと一緒に、8月は三沢市立三沢病院へ、9月には公立野辺地病院へ訪問させていただきました。時間外勤務や夜勤従事に関する課題、年休取得の推進、プラチナナースの活用など、他の医療機関でも同様に抱える課題解決へ真摯に取り組んでいることが把握できました。よりよい労働環境づくりのために、今回訪問させていただいた事を、今後の委員会活動にも反映していきたいと思えます。ご協力いただいた三沢市立三沢病院様ならびに公立野辺地病院様、青森県医療勤務環境改善支援センター様、ありがとうございました。



新人助産師情報交換会

9月12日(木) 県民福祉プラザにて開催

助産師としての基本的スキルを身につけ、他施設助産師との情報交換を行うことで悩みや思いを共有できることを目的に、令和6年9月12日(木) 県民福祉プラザにて開催しました。令和4年度に行った新人助産師育成に関する実態調査で要望が多かったため、今年度初の試みで実施しました。内容は、『新生児のフィジカルアセスメント』について、弘前大学医学部附属病院小児看護専門看護師 齋藤身和氏、『助産師としてのキャリアを考える』と題して、青森中央学院大学看護学部教授 猿田了子氏よりそれぞれご講義していただき、その後情報交換をしました。参加者は6名でしたが、同じ悩みを抱えていたり、新人助産師として頑張る他施設の皆さんとの交流は英気を養う時間になったようです。



情報交換で
悩みや思いを共有



ナースセンターだより

No.127

復職支援研修

最新のインスリン注射と血糖測定

令和6年7月8日(月)県民福祉プラザ、8月26日(月)ユートリーの2会場で、それぞれ糖尿病看護認定看護師の井上和子氏と松橋法子氏を講師にお迎えし、糖尿病の基礎知識の他にシミュレーターを用いた演習を行いました。参加した30名の看護職は、普段目にすることがない多種にわたるインスリン注射や血糖測定器を手に取り、関心を寄せて聞き入り、活気ある雰囲気で開催が進められました。今後も最新の情報や知識・技術を習得する研修を企画していきたいと思っております。



プラチナナース雇用に向けた取り組みの発表



プラチナナース活き活き相談会

セカンドキャリアセミナー

看護職と求人施設がWIN-WIN!

令和6年10月10日(木)リンクステーションホール青森、10月22日(火)ユートリーの2会場開催で、合わせて看護職31名、13施設の参加がありました。体験発表では、早期退職後現在養護学校で活躍されている浅利秀子氏と、総合病院を長年勤務後、在宅や老健でも経験を重ね現在看護学校で臨地指導員として活躍している上野公子氏に発表していただきました。また、施設からはプラチナナース雇用に向けた取り組みの発表と、セミナー後半には「プラチナナース活き活き相談会」を開催、働き方について参加者と施設の双方の思いを共有する時間となりました。これからも、看護職と施設の橋渡しをしていきたいと思っております。

地域に必要な看護職確保推進事業

青森県看護協会地域応援看護職「青森ともナース」第2弾!!

令和6年度は、下北地域と西北五地域へ圏域を拡大して応援を希望する医療機関を募集したところ、むつりハビリテーション病院から、応援求人がありました。応援看護職に興味・関心のある皆様のお申し込みをお待ちしております!詳しくは、ナースセンターホームページをご覧ください。

地域偏在の解消や人材確保を図る取り組み!!

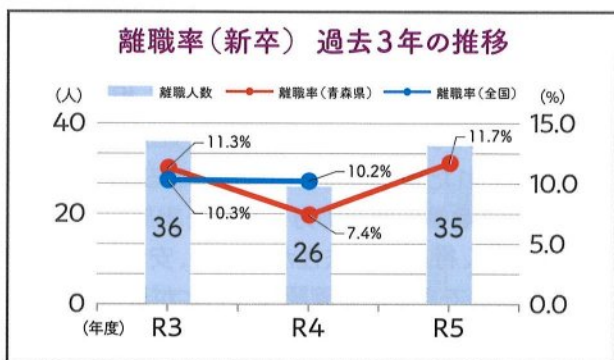


令和6年度 新人看護職員等離職防止及び定着促進事業 実地指導者・教育担当者研修



青森県ナースセンターによる令和6年度看護職の需要および離職状況調査では、令和5年度の新人看護職離職率が11.7%と前年度より4.3%悪化していました。離職理由の上位は、1位「自分の健康(主に精神的な理由)」、2位「自分の適正・能力への不安」、3位「他の病院や職場への興味(看護職として)」と、毎年順位の変動はありますが退職理由は固定化されています。看護技術の自信のなさや不安から精神的負担が生じ、心の健康の維持ができなくなり離職に繋がっていると推測されます。

今年度、本事業では、実地指導者と教育担当者の研修を9月より5回シリーズで開催し4回終了しました。県内各施設から47名が参加し、「新人看護職員研修ガイドライン」を用いて自施設の新人教育の現状分析や、メンタルサポートの支援のあり方、アンガーマネジメント、指導者の育成と組織作り等を学んでいます。参加者からは、新人教育の課題が見えた、指導者に対する教育・環境を整備したい、人材育成の組織力を高めたい、相手の言葉や気持ちを引き出す技術を学ぶことが出来た等ご意見をいただいております。最終回は、次年度の自部署の新人研修改善計画を発表して修了となります。



今回受講した参加者がそれぞれの職場で学んだことを活かして、実践能力に不安を感じている新人看護職員に対し精神的支援をしながら指導し、また新人教育体制も充実していくことを願います。

**メンタルヘルス
コラム**

青森県
ナースセンター
ホームページに
掲載中
(月2回更新)

詳しくは
こちら

心の相談窓口

就業3年未満の新人
看護職員の皆さん!
一人で悩まず相談
しませんか!!

就業3年未満 新人看護職員のための
心の相談窓口

ひとりで悩まず、相談しませんか?

周りに比べ自分は仕事ができない
看護師が向いていない、辞めたい...

インシデントが続き辛い...落ち込む...
先輩との人間関係で悩んでしまう...

専門の相談員(公認心理師)が対応し、個人情報も厳守いたします。

対象 就業して3年未満の新人看護職員
実施期間 令和6年6月1日～令和7年2月28日
相談方法 ①メール相談:24時間受付
相談E-mail: souden_nursing@aomoriacc.jp
②電話相談:24時間受付
相談電話:017-723-4580

公益社団法人 青森県看護協会 青森県ナースセンター
〒030-0822 青森県青森市下田町1-1-1 青森県ナースセンター
TEL.017-723-4580 FAX.017-735-3836

看護補助者不足していませんか?

看護補助者の確保・定着推進事業

令和5年10月の「看護師等確保を推進するための措置に関する基本的な指針」改定により、看護師等の無料職業紹介事業と併せて、看護補助者の無料職業紹介事業を全国的に実施することとなりました。青森県ナースセンターでも、病院等における看護補助者の確保・定着に向けて、質の高い看護補助者の養成と就業支援を行う目的で、令和6年11月から看護補助者の無料職業紹介を開始しています。「ナースセンターによる看護補助者の就業に向けた研修」を修了した方々のご紹介をいたしますので、看護補助者採用をご検討の施設の方は、ナースセンターまでご連絡ください。また、これを機に一般の方々へ広く周知したいと考えております。

青森県ナースセンターから
看護補助者の
就業をサポートします



訪問看護総合支援センターを立ち上げて

青森県訪問看護総合支援センター(以下センターとする)は、開設2年目を迎えました。センターには3つの目的「経営支援」「人材確保」「訪問看護の質向上」があります。



今回から3回に分けて、この3つの目的と県内の現状をお話していこうと思います。まずは、「経営支援」についてです。

訪問看護事業所 運営基盤整備支援



「経営支援」には2つの機能があります。1つは「訪問看護事業所運営基盤整備支援」です。事業所運営基盤を安定化させるために、訪問看護事業所の経営に関する基礎知識及び訪問看護の質の評価などについて研修を行い、管理者の経営力を支援しています。

また、訪問看護事業に係る県の補助金情報を提供するなどして経営の安定化にむけた支援をしています。

令和5年度と令和6年度は「訪問看護の経営の基礎知識」、令和6年には「訪問看護の質の評価」について研修を開催しました。参加者は20名程、そのうち3分の1は訪問看護未経験者、初任期管理者でした。参加後のアンケートでは、経営に直接携わっていないので難しいという意見もありました。この事実を訪問看護総合支援センター運営協議会で報告したところ、「訪問看護師は経営の専門家ではないので、看護に専念できる環境を整える方が優先ではないか」「会計や税務などはアウトソーシングすべきではないか」などの意見が出されました。このことから、管理運営などアウトソーシングの可能性を考慮しつつ、まずは訪問看護師全員が訪問看護の基礎知識として収入の仕組みを知り、利用者に適切かつ効果的な訪問看護を提供するための視点を持つことが望ましいと考えています。次年度は管理者のみならず従事者を含めての研修を行う予定です。

訪問看護事業所 開設支援



もう1つは「訪問看護事業所開設支援」です。訪問看護事業所の新規開設を含む相談支援を行っています。令和5年度は103件、令和6年度は11月現在で85件の相談がありました。新規開設に関する相談は、昨年度は3件、今年度は1件の相談が寄せられています。寄せられる相談は、「事業所の管理運営について」「報酬について」「研修について」「求人・求職について」などです。昨年度は、電話による相談が多くありました。

相談対応は、まずは聞き取りに徹します。相談者が「こんな症例でこんなことがあって、こんな気がかりがある」と一通り話された後で課題が明らかになることがあるためです。次に「●●の状態の方へ●●を実施してよいか」等の問いには、行為に違法性が無いか、安全かつ安心して看護を提供できるかを確認することが最も重要だと考えています。そのため、法制度、条例、通知の解釈について東北厚生局などしかるべきところへ確認をしています。また、日本訪問看護財団や全国訪問看護事業協会などの専門職能団体に連絡をして、この回答で安全性が担保されるかなど意見交換をすることもあります。個別事例への対応については地域包括支援センターへ、医療連携やより実務的なことは青森県訪問看護ステーション連絡協議会へ、社会資源については各自治体へお尋ねすることもあって多様な資源を活用しながら回答をしているところです。また配慮すべき点として、相談者が今後も課題解決に取り組んで行けるように、参照とした資料をお伝える、また管理者同士のネットワークが作れるように青森県訪問看護ステーション連絡協議会の活動を紹介しています。回答に時間を要することもあります。相談を通して皆様の困りごとを把握し課題解決に向けた活動に繋げていきたいと考えています。どうぞ遠慮なくご相談ください。



記：青森県訪問看護総合支援センターセンター長 其田 貴美枝

訪問看護ステーションを開設したい。どうしたらよいか？

訪問看護の経験がないけど管理者を任された。研修などありますか？



●●状態の利用者を訪問しているが、■■加算は算定できますか？

訪問看護の経験がない人を採用しました。職員研修や教育に係る補助金はありますか？

メール相談

24時間受付

青森県訪問看護総合支援センターホームページ

houmon-soudan@egao-park.net



遠慮なくご相談ください

～広報出版委員会より～

興味を引く広報誌づくりのための学習会を開催しました

9月25日(水)、広報出版委員会を対象とした、広報誌づくりのための学習会を開催しました。委員は広報誌づくりが未経験であり、興味を引く広報誌が作りたいという思いから、開催に至りました。広報出版委員会以外にも上十三支部から5名の参加がありました。講師には、青森市内で青森をテーマにした書籍「季刊 あおもりのき」を発行している、ものの芽舎の佐藤史隆氏と佐藤あい佳氏を招き、講義をしていただきました。

講義では、大前提として「誰」が「誰」のためにつくる広報誌なのか、「何」のための広報誌なのかが重要で、それによって記事の選び方・作り方が変わってくるという内容から始まりました。その後は、記事作成にあたって意識したいことや、読んでもらいやすくするために重要なことを、事例や実際の書籍の内容を紹介しながら、具体的に講義していただきました。

広報誌作成のためには、取材をする、インタビューをする、写真を撮る、記事を執筆するなど、普段看護師として臨床で

は行うことのない活動があります。その活動に関する疑問等を講師へ質問し、記事の書き方やインタビューの仕方、写真の撮り方、レイアウト、取材時の服装や持ち物などについて、アドバイスをいただきました。

「看護 青い森」は、「青森県看護協会」が「会員」のためにつくる広報誌であり、「タイムリーな情報を会員に伝えること」を目的としています。これを念頭に置き、興味を引く広報誌が作れるように、今回の学習会の内容を今後活かしていきます。

記：広報出版委員会 佐野 央



講師の
佐藤史隆さんと佐藤あい佳さん

取材レポート

新人看護職員等離職防止及び定着促進事業研修 令和6年12月7日開催

「令和6年度青森県新人看護職員等離職防止及び定着促進事業における管理者研修」がリンクステーションホール青森にて開催されました。17施設29名の病院看護管理者と県内看護師等学校養成所の教員が「自施設の勤務環境と教育体制の取り組み」について情報交換、グループワークを行いました。

令和5年度青森県の新卒看護職員離職率は11.7%で、小規模の病院ほど離職率が高いという結果になっています。離職理由としては、「自分の健康(主に精神的理由)」「自分の適正・能力への不安」「他の病院や職場への興味(看護師として)」が上位で推移しており、看護技術の自信のなさや不安、コミュニケーションに対する困難感等により、精神的負担が増強し離職につながっていることが示唆されています。

グループワークでは、プリセプター制度だけでは十分な支援になっておらず、病棟全体あるいは病院組織全体で新人看護師を支援・教育する体制が求められ、整いつつあることがわかりました。他に離職防止対策として、職場内の良好な

人間関係、夜勤等のシフト調整、相談窓口の確保などが検討されました。なかでも相談窓口については、先輩看護師や病棟師長以外の第三者が話を聴ける窓口の必要性や、新人看護師が悩みアドバイスが欲しいと思った時には、受け入れてくれる母校との繋がり大切さについて情報交換されていました。

また、教員からは、新人看護師の状況を臨床と共有していくことや、職業意識が持てるよう、社会人基礎力は在学中に高めていけるのではないか、という意見も示されました。

活発な意見交換が行われ、参加者からは、他施設の取り組みを参考にしたいという意見があり、有意義な研修であったと思います。

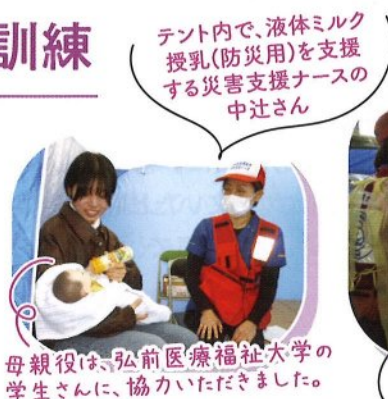
記：広報出版委員会
金濱 由美子



令和6年度青森県総合防災訓練

10月30日(水)に、弘前市で「令和6年度青森県総合防災訓練」が大規模に実施されました。

当協会では、初めて開設した昨年度に続き、避難所に「母子避難コーナー」を設け、災害看護活動委員会から災害支援ナースでもある2名が要配慮者である妊婦、乳児支援を実施しました。特に、妊婦については、出産も想定し分娩セットを準備する等体制を整えました。



母親役は、弘前医療福祉大学の学生さんに、協力いただきました。



災害時の母子支援の必要性を力説する災害支援ナースの橋爪さん。

職能委員会



保健師

4職能・東青支部合同



木村隆次先生

看護職の連携のための圏域内研修会

10月19日(土)に青森県労働福祉会館において「看護職の連携のための圏域内研修会」を開催し、23名が参加しました。

「地域共生社会構築に向けた看護職の連携強化」をテーマに木村隆次先生よりご講演をいただきました。

看護職に求められる役割は、対象者がどのような暮らしを望んでいるかを知り、本人が望んでいる暮らしができるように伴走型支援を行っていくことです。そのためには、看護職だけでなく、多職種連携を強化し、地域包括ケアシステムの仕組みを動かしていく必要があることを学びました。

その後、看護職の連携があった母子および高齢者を対象とした1事例について事例提供があり、それに基づいてグループに分かれて事例検討を実施しました。

この事例検討を通じて同職種だけでなく多職種と連携していくことで新たな視点を考えられること、また目の前の出来事のみでなく、将来を見据えた具体的なイメージを伝えていくことが、対象者と家族の暮らしを守っていくことにつながることを学びました。

記：保健師職能委員会 徳田 沙泰佳

助産師

いいお産の日 2024 in はちのへ

「いいお産の日 2024 in はちのへ」と題して今年度も11月3日(日)に八戸総合保健センター1階大ホールにおいてイベントが開催されました。大勢の妊産婦さんをご主人やお子さん、ご両親を連れて参加してくれました。中でもマタニティービクスとママのための産後エクササイズは盛況で各々が清々しい汗をかき、みんな笑顔になっているのが印象的でした。看護協会ブースではパパの妊婦体験、血管年齢測定を行いました。パパたちが妊婦体験を積極的に参加してくれ、それぞれがママへの感謝を口にされているのを見て微笑ましかったです。血管年齢測定では老若男女を問わずその結果に一喜一憂していましたが、健康を振り返る一助になっていたと感じています。また着ぐるみのかんごちゃんは大人気で、子供た

ちがその場から離れず話しかけてくれるのが嬉しくて遊びすぎてしまいました。その結果、着ぐるみ内は滝汗だったことを申し添えます。

記：助産師職能委員会 高橋 吉菜



看護師 I



藤井淳子先生

11月16日(土)青森県労働福祉会館において、家族支援専門看護師の藤井淳子先生をお招きし、「在宅療養支援能力向上－家族看護に焦点を当てて－」と題した研修会を開催しました。

現場では病棟・外来ともに常に忙しく、誰にどう支援していけばよいかわからない。そんな中で、支援が必要な患者家族を見つけ支援するコツを、事例を使用しとても分かりやすく教えていただきました。困った家族と思う家族は、家族が困っており支援を必要としているということ、医療者の一言で家族の揺らぎを止めることも大きくすることもできるということを学びました。

グループワークでは活発な意見交換ができ、家族を見る視点が変わり明日からの臨床で大いに役立つという感想もいただきました。

記：看護師職能委員会 I 築地 清子

看護師 II

11月9日(土)の青森県看護学会において、看護師職能委員会 II 阿保委員長が「青森県内の介護施設・事業所等の管理者及び看護師の特定行為研修に関する認識と受講の意向についての実態調査報告」を発表しました。

青森県内には特定行為研修指定研修機関が3施設あり、青森県の第8次医療計画では特定行為研修修了者を41人(令和4年度)から162人(令和11年度)まで増やす計画を掲げています。今回発表した調査では病院以外に勤務する看護師は特定行為研修を受講したい(67%)と思っているが、人員不足や経済的な理由などで管理者は受講させることを考えていない(46%)との回答がありました。このような現状から、今後も看護協会として特定行為研修修了者が活動しやすい環境づくりに取り組んでいきます。

記：看護師職能委員会 II 担当常務理事 山内 留美子



阿保委員長

産後ケア事業推進交流会

11月23日(土)県民福祉プラザにて青森県との共催により「産後ケア事業推進交流会」が開催されました。医療機関、行政、学校、助産院、助産師会など多岐にわたる59名が参加しました。講師に産後ケア宿泊型と通所型を実施している八戸市立市民病院産科外来主幹看護師 田中千織氏を迎え「産後ケア事業の取組と更なる推進に向け

て」についての講演と「産後ケア事業を実施して 各立場から」をテーマに3名の方からの情報提供をいただきました。講演後9名からの質問や情報提供があり、活発な意見交換が行われ、マイク係が忙しかったと話すほど大盛況でした。まだまだ芽吹いたばかりの産後ケア事業について多職種で考え課題を共有できた交流会でした。

記：助産師職能委員会 高橋 彩子



第2回研修会

◎ 西北五支部 記：幹事 花田 和江

10月19日(土)「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について学ぼう」をテーマに、第2回研修会を開催しました。つがる総合病院緩和ケア認定看護師の神梨沙さんを講師に迎え、ACPにおける私たちの役割についてご講演いただきました。研修には圏域内外から多数の参加がありACPに対する関心の高さがうかがえました。

ACPは医療者の価値観を押し付けず、患者の価値観・意思を十分に確認して、意向に沿った意思決定ができるようにサポートしていくことが重要であるとお話されていたことに共感しました。



研修会の様子

秋の学習会

◎ 中弘南黒支部 記：記録係 福澤 麻衣子

11月30日(土)に秋の学習会が開催されました。「あなたの印象アップ～笑顔が伝わる眉メイク術～」をテーマに、DRAW&CO.のアイブロウデザイナー 蒔田安奈様を講師にお迎えしました。講義では、自分の顔の形やなりたいイメージに合った眉メイクの方法や、表情を明るく見せるカラーテクニックを学びました。わかりやすい説明と実践的なアドバイスにより、眉メイクが印象を大きく左右する重要性を改めて感じました。

マスクで表情が伝わりにくい日常ですが、参加者からは「患者さんへ好印象や安心を与えたい」との声が寄せられました。



笑顔が伝わる眉メイク術!



東青支部は研修を

健康まつりに参加しました



◎ 三八支部

9月29日(日)

八戸市健康フェスタ! 2024

in 八戸市総合保健センター

◎ 上十三支部



9月29日(日)

第19回三沢市社協まつり

in 三沢市総合社会福祉センター

◎ 下北支部



11月30日(土)

第32回大間町産業祭

in 大間町総合開発センター

下北地域の看看連携の発展に向けて

下北支部 記：広報 藤本 はる美

11月16日(土)、公済会館にて第二回下北支部研修会が行われました。今回はむつ総合病院精神保健福祉士の三国彩香講師に、精神障害者制度について講演していただき、障害者施設で働く看護職からのメッセージをテーマに、2施設の看護師の発表をしていただきました。今回の研修によって、普段知ることのない障害施設での看護師の役割、また障害施設での抱える問題を知ることができました。これからの地域医療におけるネットワークづくりを助け、下北地域が住み良い地域になればと思います。



第二回下北支部
研修会の様子

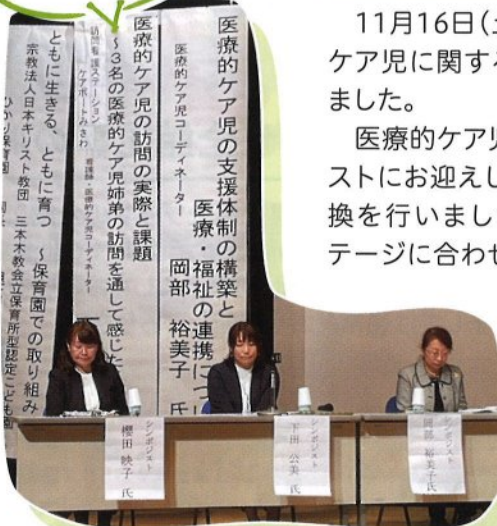
シンポジウム「医療的ケアを必要とするこどもの支援」

上十三支部 記：庶務係 四戸 優

11月16日(土)、春の看護研修会に引き続き医療的ケア児に関するテーマで看護ケア検討会を開催致しました。

医療的ケア児に携わっている多職種3名をシンポジストにお迎えし、各々の役割からの実践報告と意見交換を行いました。医療的ケア児1人1人のライフステージに合わせたケアを構築するためには、多職種の綿密な連携やご家族との密な関わりと信頼関係がとても重要だと感じました。シンポジストそれぞれが、ご家族や児の不安が少しでも良くなるようにと愛と熱意のある発表をされ、胸が熱くなる看護ケア検討会でした。

3名の
シンポジストの
先生方



医療的ケア児の支援体制の構築と医療・福祉の連携について
岡部 裕美子 氏
医療的ケア児の訪問の実態と課題
3名の医療的ケア児姉弟の訪問を通して感じたこと
ともに生きる、ともに育つ ～保育園での取り組み
宗教法人日本キリスト教団 三本教会立保育所型認定こども園



4職能と合同で
行いました

第5回看護実践報告会

三八支部 記：記録係 若林 桂子

11月16日(土)八戸市総合保健センターにおいて看護実践報告会をハイブリッド形式で開催し、会場35名、ZOOM 15名が参加されました。「患者の生活の質を維持し、地域で暮らし続けるための切れ目のない看護について考える」をテーマに、4題の看護実践報告があり、患者・家族に寄り添い、多職種を巻き込んだ介入が重要であることを再認識する機会となりました。また、各施設の取り組みに対し、活発な意見交換がされ、より良い看護実践につながるための課題について考える有意義な時間となりました。

看護実践報告会の
様子



こんにちは!
准看護師
理事の高橋です。
Part.2



キャリアアップ
考えてみませんか?
准看護師から看護師へ

今回は進学について取り上げます。私達准看護師のキャリアアップにおいて『進学』は重要な選択肢の一つです。上司や同僚が推してくれるけど…、簡単に進学と言うけど…お気持ちわかります。職場環境、家庭環境、金銭的問題、モチベーションなど様々な悩みや思いをお持ちだと考えられます。しかし進学を決断することは家族、上司、同僚ではなく自分自身です。

そのため准看護師のネットワークを構築し、皆様が抱えている進学に対する悩みや思い、心配事を共有しませんか? 青森県看護協会は私達准看護師の進学を全面的にバックアップしてくれています。一人でも多くの皆様から声をいただき、准看護師の声として理事会に届けたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

記: 准看護師理事 高橋 善弘(むつりハビリテーション病院)

資格取得のための進学情報

県内 看護師学校養成所

青森市立高等看護学院	2年課程(定時制) ※大学等への編入可
弘前市医師会看護専門学校	2年課程(定時制) //
一般財団法人双仁会 厚生看護専門学校	2年課程(定時制) //
五所川原市立高等看護学院	2年課程(定時制) //
八戸市立高等看護学院	2年課程(全日制) //

県外 看護師学校養成所

西野学園札幌医学技術福祉 歯科専門学校	2年課程(通信制) ※函館校で スクーリング開講
東北福祉看護学校(宮城県)	2年課程(通信制) ※R7年度で募集停止
国際医療看護福祉大学校(福島県)	2年課程(通信制)

※受講にあたっては青森県看護師等修学資金や日本看護協会奨学金などを活用しましょう!
進学情報につきましては、下記までお気軽にご相談ください。お待ちしております!

提供: 青森県看護協会教育研修課 担当常務理事 山内 留美子 ☎017-723-4579



令和7年度 県民福祉プラザ全館工事のお知らせ

令和7年度(令和7年6月~令和8年3月末)において、県民福祉プラザの全館工事に伴い、研修会場等の貸室が使用できなくなります。これに伴い、研修他各種事業の開催場所はすべて他会場となります。ご参加される皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。
なお、青森県看護協会の事務室につきましては通常どおり開館しております。

ニプロ 医療機器データ通信サポートシステム
HN LINE
Hospital Network Line

携帯用接続端末 電子カルテ

データ連携

血糖管理 | バイタル管理 | 輸液管理 | 連続見守り

血糖 | SpO₂ 呼吸数 | 体温 | 血圧 脈拍 | 輸液ポンプ | シリンジポンプ | 心拍心電波形

この広告に関してお問い合わせ先 資料請求先 **ニプロ株式会社** 大阪府摂津市千里丘新町3番26号
2023年5月作成

「ちょっと知りたい」「なんか気になる」も立派な入学動機です。

仕事をしながらマイペースで学べます!

「看護師の特定行為研修」共通科目開講中!!!
「大卒」と「看護学の学位」を取得しませんか?
BS放送やインターネット等、オンラインで学ぶ!

放送大学は正規の通信制大学です。
入学は、4月と10月の年2回。看護師・准看護師のみなさんのキャリアアップを応援します。

※青森学習センターは、2025年4月1日(火)からヒロロ(4階)に移転します。

まずは、資料をご請求ください。[放送大学] [検索]

4月入学生募集中
青森学習センター TEL 0172-38-0500 | 八戸サテライトスペース TEL 0178-70-1663

令和6年度会員数

令和6年12月10日現在

8,291名
(昨年12月比 -198人)

保健師 **205名**
(昨年12月比 -6人)

助産師 **320名**
(昨年12月比 -6名)

看護師 **7,494名**
(昨年12月比 -152名)

准看護師 **272名**
(昨年12月比 -34名)

編集後記

昨年は「看護 青い森」の誌面デザインをリニューアルいたしました。より多くの会員のみなさまに手に取っていただけるよう、今年も頑張っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

広報出版委員会